http://www.edu.pref.kagoshima.jp/ （通巻第1549号）

指導資料

鹿児島県総合教育センター

道　徳　第29号

－小，中，特別支援学校対象－

平成19年５月発行

道徳的実践力を育成する道徳の時間

－道徳的価値の自覚を深めるための表現の工夫－

現在，いじめや不登校，規範意識の低下など，教育には様々な課題があり，今日ほど道徳教育の重要性が叫ばれているときはない。道徳の時間の中で道徳的価値の自覚を深めることで道徳的実践力の育成を図ることが，今日，最も緊要な課題となっている。

そこで，本稿では，道徳的実践力を育成するための指導方法の一つとして，道徳の時間の中で道徳的価値の自覚を深めるための表現の工夫について述べる。

１　道徳的実践力とは

道徳的実践力とは，道徳的心情，道徳的判断力，道徳的実践意欲や態度を包括するものであり，道徳的実践の基盤となるものである。つまり，人間としてよりよく生きていく力とも言える。児童生徒が道徳的価値を自覚し，様々な場面や状況において，道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し，実践することができるような内面的資質を意味している。

２　道徳的価値の自覚を深めるとは

道徳的価値の自覚については，発達段階に応じて多様に考えられるが，次の３点を押さえておき，深める必要があると考える。

①　道徳的価値そのものについての理解

道徳的価値が人間らしさを表すものであるため，同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。具体的には，資料等を基に，ねらいとする道徳的価値に「ああ，そうだったのか。」と実感を伴って気付くようにすることが大切である。

②　自分とのかかわりで道徳的価値をとらえること

自分なりの価値観を深めていくことを通して，自己理解を深めていくようにする。具体的には，「今までの自分はどうであったか。」等，自分を振り返ることが大切である。

③　道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うこと

今後の生き方について考えるようにする。その中で自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにする。具体的には，「～なりたい。」という気持ちをもてるようにすることが大切である。

道徳の時間においては，児童生徒の実態に応じて，これらのことが主体的になされるように様々な指導方法を工夫していく必

要がある。

3　道徳的価値の自覚を深める基本的な指導過程例

道徳的価値の自覚を深めるためには，以下のような指導過程が考えられる。

過程			学習内容
導入		価値の意識化	●　ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。 ・　これまでの経験を想起する。 ・　学習のめあてを設定する。
展開	展開前段	価値の焦点化 価値の追求・深化	●　資料を基にした，ねらいとする価値の追求をする。 ・　資料を読んで感想をもち，価値の焦点化を図る。 ・　資料中の主人公に共感しながら，その行為や動機，心情に迫る。 ・　価値について話し合い，多様な価値観（感じ方・考え方）に触れる。 ・　自分なりの道徳的価値観を深める。
	展開後段	価値の自覚化	●　自分自身の問題として考える。 ・　自分なりの道徳的価値観を深めることを通して，今までの自分を振り返る。 ・　人間としての在り方を吟味し，生き方を自覚する。
終末		実践への意欲化	●　ねらいとする道徳的価値の整理・まとめをする。 ・　ねらいとする道徳的価値についてまとめる。 ・　教師の説話等を聴き道徳的価値への関心を持続させ，実践への意欲をもつ。

4　道徳的価値の自覚を深める表現の工夫

表現の工夫には，大きく分けて動作化や劇化，役割演技などの表現活動の工夫と学習ワークシートや道徳ノートなどの書く活動の工夫の二つがある。

(1)　表現活動の工夫

児童生徒が登場人物の役割をもって自己の思いや考えを語ったり，その場面を忠実に表わしたりすることが表現活動である。表現活動の主なものとしては，動作化，劇化，役割演技などがある。児童生徒の表現活動を豊かにし，道徳的価値の自覚を深めるために，それぞれの表現活動の特徴やそのよさ，生かし方を明確にしておくことが大切である。

ア　表現活動のそれぞれの特徴

動作化，劇化，役割演技にはそれぞれ次のような特徴がある。

○　動作化
登場人物の動作等の模擬や模倣をすることで，資料を読んだ後の感想や，その理解を深める方法である。動作を表わす言葉を手掛かりに模倣して体感する。

○　劇化
資料中のせりふを生かして劇にし，状況や心情を感じ取ろうとする方法である。動作化が，ある一部分の内容表現であるのに対して，劇化は，ひとまとまりの内容を表現する方法である。表現に際しては，せりふや表情，動作，間などを児童生徒一人一人が自分の考えを生かして行う。

○　役割演技
児童生徒が特定の役割をもって，資料場面を手掛かりに即興的，創造的に演技することを通して道徳的価値についての考えを深める方法である。役割演技の特徴は，自発性と即興性にあり，日ごろの児童生徒の考え方や思いが表れやすく，創造的な表現が生まれるところにある。

イ　表現活動の生かし方

動作化，劇化，役割演技には，それぞれのよさがある。ここでは，表現活動の中で代表的な役割演技のよさやその留意点，生かし方について述べる。

(ｱ)　役割演技のよさと留意点

【役割演技のよさ】
○　児童生徒の心を開くことができる。
○　場を想像する力や共感する力を高めることができる。
○　自他の認識を深めることができる。
○　自発的・創造的な道徳行為を促すことができる。
○　学習意欲を高めることができる。
【役割演技の留意点】
○　脚本をつくったり，ただ文言を読み上げるだけのものとしない。
○　役割演技を全員で行って，それで終わってしまうような方法にはしない。
○　演技の上手，下手についての話合いや，役割演技の実技指導にはならないようにする。

(ｲ)　役割演技の生かし方

役割演技のよさや留意点を踏まえながら役割演技の生かし方を考える。次に示すのは，役割演技の生かし方についての基本的な考え方である。

【事前】
○　日ごろから，伸び伸びとした自己表現ができるような温かい雰囲気の学級づくりに努める。
○　発表が苦手な児童生徒のために，お面や小道具，人形，ペープサートなどを準備する。
【展開前段】
○　役割演技により，登場人物の立場を考えたり，自分と比べたりしながら道徳的価値を追求できるように，資料の中の登場人物の立場やせりふを提示する。
【展開後段】
○　自己を振り返る場面では，キーワードを示し，自分の考えと対比する手掛かりとする。
【活動内容】
○　役割を交代させることで，相手の立場を考えられるようにする。
○　演じる児童生徒だけでなく，それを見ている児童生徒の意識を集中させる。
○　役割演技が生きる場面を見極めて行う。
○　形式にこだわることなく，役割演技の生かし方を柔軟に考える。

表現活動は，道徳的価値の自覚を深めるための有効な指導方法であるが，表現活動さえ取り入れればよいというものではない。それぞれの表現活動のよさや留意点を踏まえた上で，道徳的価値の自覚を深めるための有効性を考慮して活用することが大切である。そして，その表現活動をどの場面で，どのように活用するのか吟味する必要がある。

(2)　書く活動の工夫

書く活動は，児童生徒の感じ方や考え方の深化を促すという面をもっている。道徳的価値の自覚を深めるために，そのよさや留意点を踏まえた上で，書く活動の生かし方を考える必要がある。

ア　書く活動のよさ

道徳の時間における書く活動のよさには以下のようなものがある。

《児童生徒にとってのよさ》
【自己表現】
○　発表したいことをあらかじめ書くことで，自分の考えを整理できる。
○　発表が苦手でも書くことが得意な児童生徒が生かされる。
○　発表が一部の児童生徒に限られるのに対して，書くことで全員が自己表現できる。
【相互作用】
○　相互に書いたものを見せ合うことで，様々な価値観に気付くことができる。
【自己観察・省察】
○　自分を集中して見つめることができる。
○　自分の思いや考えが明確になる。
【自己評価】
○　書いたことを見直すことで，自分の考え方の変容を知り，自己評価に生かすことができる。
《教師にとってのよさ》
【意図的指名】
○　児童生徒の書いた内容を見取ることで，意図的指名に生かすことができる。
【授業改善】
○　事後の個別指導や授業改善に生かすことができる。
【児童生徒評価】
○　書いたものを長期間にわたって保存，比較することで，児童生徒の変容を見取ることができる。

イ　書く活動の留意点

書く活動のよさは実に多面的であるが，一方で，その生かし方には以下の点に留意する必要がある。

○　書くことが苦手な児童生徒への対応
　書くことが児童生徒の過重負担にならないように，書く量も配慮する。
○　書く活動の適切な設定
　話合いの盛り上がりが途切れないよう，適切な場面で書く活動を設定する。
○　発問と指示がずれないこと
　学習ワークシート等は，児童生徒の書きたい内容が変わってきたとき，対応できるようにする。
○　発問内容が先まで見えないこと
　学習ワークシート等に発問や指示が授業の終末まで書いてあることで，授業の流れが決まり切ったものになっているという印象を児童生徒に与えないようにする。
○　常に同じ形式ばかりにならないこと
　常に同じ形式にすることで，児童生徒の批判的思考や分析的思考を妨げないようにする。

ウ　書く活動の効果的な生かし方

書く活動のよさを引き出し，道徳的価値の自覚を深めるためには，書く活動の形式や方法を，児童生徒の視点に立って，弾力的に生かすようにすることが必要である。また，形式を固定せず，柔軟な対

応が可能な学習ワークシートや道徳ノートにすることも大切である。

次に示すのは，書く活動の効果的な生かし方についてである。

○　書く活動の設定
　児童生徒のこだわり等の多様な感じ方，考え方を引き出すために，多様さが出る場面に絞って書く活動を設定する。具体的には，資料による話合いの一場面やその話合いを生かして，自分を振り返って見つめる場面が考えられる。１時間の道徳の時間では，一回か二回ぐらいに絞るのが効果的である。
○　学習ワークシートの形式
　児童生徒のこだわりや問い掛けに柔軟に対応できるように，自由度の高い形式にする。発問がすべて印刷されていないようにする。
○　教師のコメントの記入
　児童生徒との対話が促されるよう，教師のコメントを記入できるようにする。

5　道徳的価値の自覚を深める学習の展開例

次に示すのは役割演技や書く活動を活用した学習の展開例である。

今までの自分を振り返ったり様々な価値観に触れたりすることで，自分なりの道徳的価値を深めます。

教師の発問欄を空欄にしておくことで，児童生徒のこだわりや問い掛けに柔軟に対応できるようにします。

自分なりの道徳的価値を深めることができるように，自分の考えを整理する欄を設けます。

中心発問に対しての自分の考えを述べる欄を設けることが大切です。

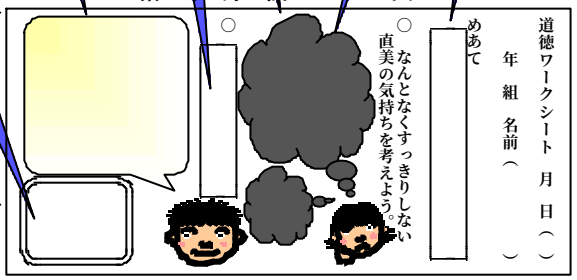
めあては，児童生徒の言葉で記入することが大切です。

書く量は，児童生徒の過重負担にならないようにします。

教師のコメント欄を設けることで，児童生徒との対話が促されるようにします。

(1)　主題名　　「おたがいの立場を考えて」（寛容・謙虚）
(2)　資料名　　「お別れ会」　学習研究社６年
(3)　ねらい　　自分とは異なる立場の意見にも謙虚に耳を傾け，広い心でお互いを認めようとする心情を高める。

過程			学習内容	指導方法の工夫
導入		価値の意識化	1　自分の失敗や過ちなどを許してもらった経験や，他の人の行為で許せなかった経験について話し合う。 相手の立場に立って行動するためには，どんな気持ちをもつことが大切だろうか。	
展開	展開前段	価値の焦点化 価値の追求・深化	2　資料「お別れ会」を視聴し，登場人物の気持ちを考え，話し合う。 (1)　初発の感想を話し合う。 (2)　行きたかったドライブを断っても，約束を守ろうとした直美の気持ちを考える。 (3)　お別れ会が延期になった翌日の友達一人一人の言い分について役割演技をしながら話し合う。 (4)　泣きそうになった小原さんを見て，なんとなくすっきりとしない直美の気持ちについて話し合う。	
	展開後段	価値の自覚化	3　相手の立場になって考えるためにはどんな考えや気持ちが大切なのかを，自分の経験を基に話し合う。	
終末		実践への意欲化	4　相手の立場や気持ちを考えて，広い心で接することについて，ゲストティーチャーの話を聴く。	○　ゲストティーチャーとして招かれた保護者の話を聴くことで，本主題に関する思いや多様な生き方，考え方に触れることができるようにするとともに，実践意欲が高まるようにする。



〈図　道徳的価値の自覚を深めるためのワークシートの工夫例〉

●　翌日の場面の一人一人のせりふを考えることで，それぞれの立場に立って，気持ちを共感的に考えることができるようにする。その後，そのせりふを基に役割演技をしてみんなで話し合うことで，登場人物の気持ちを深く掘り下げ，自分の考えを更に広げることができるようにする。
●　すっきりしなかった直美の気持ちの背景を考えることで，自分なりの道徳的価値観を深めることができる。
（学習ワークシートの活用）
●　今までの自分を振り返ったり，自他の多様な意見を聞いたりすることで，自分なりの道徳的価値観を深める。
（学習ワークシートの活用）

役割演技

（鹿児島市立山下小学校　中熊信仁教諭の実践を基に作成）

6　まとめ

役割演技等の表現活動や書く活動を含めた多様な指導方法を工夫することで，道徳的価値の自覚を深め，道徳的実践力を養う道徳の時間を充実していくことを期待したい。

【引用・参考文献】

文部省『小学校学習指導要領解説道徳編』平成11年５月
文部省『中学校学習指導要領解説道徳編』平成11年９月

（教科教育研修課）